

環境WG、地球環境情報プラットフォームについて

- 環境WGの目的、役割を明確に
- 産業への貢献のみならず、地球規模課題の解決が重要(SDGsへの対応等)
- 総合戦略2017に載せるストーリーを作ること
- このプラットフォームの2030年のイメージを描いてみるべきではないか
- Society5.0はサイバー空間とフィジカル空間に分けているが、地球環境情報PFはサイバー空間にあたるのか？地球環境情報プラットフォームとしてのソリューションは何か？
- イノベーションの観点からは、今まで得にくかったデータを如何に簡便に多量に集めるかという点にも着目すべき
- データの公開には法による規制がかかっているものもあることに注意が必要
- 利用を進めるためには、地球環境のこともAIのこともわかっていてサポートできる人材の養成が必要ではないか
- 衛星観測だけでなく、地上観測も重要

DIASについて

- 全てのデータをDIASに集めるのではなく分散型のシステムを考えるのが現実的ではないか
- データポリシーを統一して、ワンストップで済む体制を作る。技術の話ではなく、体制の話。
- データポリシーの整備やオープンデータ化についても議論すべき。
- データの品質管理は誰がするのか？ばらつきがあると信頼性が失われる。
- 研究側のニーズから予算が作られている。民間にとってのニーズと知的所有権の整理を。
- DIASは特定の人がデータを置くことがメインとなっていて、データ交換の機能が乏しい。
- 産業利用の立ち位置が不明。DIASの維持コストは誰が払うのか？
- ビッグデータをAIなどを使って取得して解析するのが理想だが、DIASからはリアルタイムデータを取れない。NASAはその辺はきちんとしている。
- 日本海洋データセンター(JODC)では海洋情報の一元化を進めているが、これとの整合性をどう取っていくか。
- 悪意を持って利用しようとする人への対応を考える必要がある。

適応施策について

- 適応に関しては農林水産省の施策を取り入れるべき
- 適応施策は日本に特化していて、国際的な視点も必要。適応の取組が発展途上国では弱い。途上国では災害に強い都市作りが必要。
- 農業では20年後、30年後の話よりも次の作期の予測が必要。
- 第一次産業においては地球環境情報が重要だが、国内では衰退している。しかし、地球規模で見ると発展途上にあるので、国外からお金を入れて国内農家の増収につなげるべき。

生物多様性・生態系サービスについて

- 生物多様性をバリューチェーンに乗せる方法を考えるべき。
- 生態系サービスの可視化が必要だが、評価に耐えうる全球的生物データが無い。こういったもののデータベース化を進める必要がある。
- 一般人や民間企業のデータを活用して、ビッグデータ化すると良い。そのためには、フォーマットが柔軟なデータベースが必要
- 再生エネルギーの適地は、生物多様性の保護地域と重なっていることが多く、コンフリクトが生じている